

## O-1-1:研究経営・戦略・IR

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 13：20 - 14：50 401（4階）

NISTEP定点調査2017における「研究活動の活発度とその変動要因」の深掘分析  
村上 昭義 他1名

文部科学省科学技術・学術政策研究所（NISTEP）  
科学技術・学術基盤調査研究室

文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP)では、第5期科学技術基本計画期間（2016年度～2020年度）中の我が国における科学技術やイノベーションの状況変化を把握するため、一線級の研究者や有識者約2,800名を対象とした5年間の継続的な意識調査(第3期NISTEP定点調査)を実施している。2017年度調査(NISTEP定点調査2017)は、2回目の調査として2017年9月～12月に実施し、2018年4月に報告書として公表した。本発表では、NISTEP定点調査2017の結果概要と、深掘調査として実施した「研究成果を創出し、論文を生み出すような活動」の活発度とその変動要因についての分析結果を紹介し、調査結果から示唆される研究マネジメントや研究戦略への知見をまとめる。

## O-1-2:研究経営・戦略・IR

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 13：20 - 14：50 401（4階）

ジェンダー平等を研究力強化の切り口で考える

中村 淑子

他3名

情報・システム研究機構戦略企画本部 URAステーション男女共同参画推進室

日本の科学技術領域における女性研究者比率は2017年に15.7%と他の先進国と比べて未だ低いレベルにある。女性研究者比率は平均で年0.3%の伸びを示すが、内閣府が掲げる30%に達するには今世紀後半を待たねばならず、一律の数値目標を設定し各機関にその達成を強いる既存のやり方でこの変化を加速させることは困難であるとみられる。一方、昨年5月のジェンダーサミット10では、男性のみ、男性と女性を含むチームを比較すると、後者が高い生産性を示すことが報告された。我々は女性研究者が研究グループに加わることに研究力強化の観点からの利点があるとのデータを収集し、大学等の研究機関が女性研究者を積極的に採用することへの理論的な根拠を示すための活動を行っている。本年6月にジェンダーを含むデータの作成と解析、データを用いた評価に携わる研究者を集めたワークショップをJSTと共同開催した。この場での議論や課題を共有する。

### O-1-3:研究経営・戦略・IR

開催日時・会場 9月19日(水曜日) 13:20 - 14:50 401(4階)

86国立大学法人の財務諸表を用いた研究活動の実態把握に向けた試行的な分析  
神田 由美子 他1名  
文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術・学術基盤調査研究室

本発表では、財務諸表を用いて、86国立大学法人の研究活動を現すことを目的として、試行的な分析を行った。86国立大学法人を自然科学系の論文数シェアを用いて5つのグループ(大学グループ)に分類し、大学グループによる状況の違いや変化を見るべく、貸借対照表と損益計算書の勘定項目の可視化や主に研究活動に関する指標の作成を試みた。具体的には、研究活動に関する試行的な分析として、国立大学法人における財源の多様性、教員一人当たり研究経費の内訳、運営費交付金や学生納付金による人件費の充足率などを紹介する。

### O-1-4:国際

開催日時・会場 9月19日(水曜日) 13:20 - 14:50 401(4階)

国際学術コンソーシアムのSecretary Generalとして求められたこと:  
Science, Diplomacy, Management, and Strategy  
清家 弘史  
東北大学研究推進・支援機構URAセンター

私は2015年度から2017年度の3年間、アジア8か国・地域(日本、中国、韓国、台湾、香港、シンガポール、タイ、マレーシア)の有機化学者が集まる国際コンソーシアムのSecretary Generalとして、この地域における研究者ネットワークの強化と日本のプレゼンスの向上に協力した。コンソーシアムの秘書官として求められた資質・スキルとURAとして求められる資質・スキルは多分に似ていると同時に、相互に参考になることも多いと感じた。本発表では、私が国際コンソーシアムのSecretary Generalとして果たした、Scientist, Diplomat, Manager, Strategistの役割の概略をURAスキルの文脈から紹介するとともに、コンソーシアム運営の面白さと難しさについても簡単にふれる。

## O-1-5:国際

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 13：20 - 14：50 401（4階）

### 国際連携推進のための海外拠点活用と展開

三宅 雅人

奈良先端科学技術大学院大学・研究推進機構

我が国は、オールジャパンでSDGsを推進することを国家戦略の主軸に据えている。文部科学省においても、そのグローバル化推進を積極的に主導し、日本学術振興会など主管団体による科学技術・学術振興のために国際連携も展開されている。本学においても戦略的国際研究強化を推進しており、在欧日本化学拠点ネットワーク：JANETに加盟し、積極的な海外活動を行っている。この組織は、日本の大学および学術機関が、欧州と日本の間で広く国際学術情報の共有を図り、海外拠点と日本の大学の交流活動推進に寄与することを目的としている連携ネットワークである。このJANETでは欧州の大学や研究機関にてフォーラムを毎年開催するとともに、2017年度開催のワークショップにおいて、加盟大学間の各海外拠点の在り方と本部のサポートについて議論した。当日は、この議論の結果からさらに来場各位と共に、国際ネットワークの持続性と発展性に向けて検証したいと考えている。

## O-2-1:その他

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 13：20 - 14：50 402（4階）

### 研究アウトリーチとその取り組み

齊藤 絵理子

早稲田大学・研究戦略センター

研究アウトリーチという言葉をご存じだろうか？2006年、文部科学省が『第3期科学技術基本計画』で「国民との科学・技術対話」と定義された。研究者自身が国民との双方向的な対話を通じて国民のニーズを共有するための自主的な活動である。しかし研究者は研究に邁進することが本務であり、アウトリーチまで手が回らない、有効性や必要性がそもそもわかっていない現状がある。一方でパブリックリレーションズのような社会との関係づくりは、あらゆる業態やビジネスに入り込み、不可欠なものとなっている。しかし学術の世界ではこのような概念や事象は欠如している。本発表では、研究アウトリーチの概念、具体的事象を通し、研究アウトリーチの存在価値を考える機会と、学術機関や研究者が社会に認知され理解されるための端緒を試行する契機を提供する。

## O-2-2:その他

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 13：20 - 14：50 402（4階）

### URA業務の効率化とキャリアアップにつながる情報収集とネットワーキング

阿部 紀里子

信州大学 学術研究・産学官連携推進機構

研究支援・産学連携に関するURA業務は多種多様であると共に、前例のない手続やイレギュラーな調整・交渉が満載です。規模の大きなURA組織であれば、経験豊富な周囲の先輩や同僚が助けてくれることもあります。規模小さい又は若いURA組織においては機関内に相談できる人が全くいない状況も珍しくありません。また有用情報をいち早くキャッチすることもURAの重要な仕事の1つですが、日々の多忙な中で情報収集にかけられる時間は多くありません。

自らの努力で1つ1つ困難を乗り越えて成長していくことも大切ですが、URAには1つの業務にじっくり取り組む時間はないのが現状です。そこで、前例のない又はイレギュラーなURA業務を効率化し、キャリアアップにもつながる情報収集の方法とネットワーキングの形成について、現役URAへのヒアリングに基づいて提案します。

## O-2-3:プレアワード

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 13：20 - 14：50 402（4階）

### 外部資金獲得支援の一環としての「模擬面接・模擬ヒアリング」への取り組み

大屋 知子

大阪大学・経営企画オフィス・URA部門

経営企画オフィスURA部門では、模擬面接・模擬ヒアリング（以下「模擬面接等」という）を平成22年度から実施している。模擬面接等は、面接選考者の研究分野に近い学内の教員原則2名とURAが模擬審査員を担当し、模擬的な面接・ヒアリングを実施するものである。

当部門では「模擬審査員データベース」を構築することによって、URA個人に蓄積された情報を可能な限り可視化しており、模擬審査員を効率良く選定できる体制を整備している。また、面接選考者が後日別の模擬面接等で模擬審査員を担当、あるいは逆の事例もみられるようになってきている。最近5年間では毎年延べ100名以上の教員が模擬審査員を担当しており、模擬面接等の実施事業数は増加の傾向にあることから、学内教員の模擬面接等の重要性に対する認識は高まってきていると考えられる。本発表では、外部資金獲得支援に留まらない模擬面接等の意義についても考察する。

## O-2-4:プレアワード

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 13：20 - 14：50 402（4階）

### 東工大URA組織における外部資金獲得支援の取り組み ～JSTさきがけ支援を事例に～

小林 義和  
東京工業大学・科学技術創成研究院

他4名

東京工業大学では2017年度に研究支援及び産学連携推進体制の改革がなされた。これに伴い、URA個人が過去培ってきた研究者とのネットワークを頼りに進めがちだったプレアワード支援から、組織的な支援へと発展しつつある。組織的なプレアワード支援活動の一つとして、演者らが企画の段階から携わり2017年より開始した「JSTさきがけ検討会」がある。JSTさきがけ検討会は、他大学との比較を通じて現れてきた課題を特定し、その課題について有志教員とURAによる議論の積み重ねを経て企画・開催に至ったものである。本発表では、JSTさきがけ検討会開催までのプロセスを紹介すると共に、2度の開催を終えての気づきや課題、特に実質的・実効的な組織的プレアワード支援のあり方や、個別的プレアワード支援との協調について考察する。

## O-2-5:プレアワード

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 13：20 - 14：50 402（4階）

### 研究資金公募情報リコメンドシステムの運用

久間木 寧子  
新潟大学・研究企画室

他2名

『研究資金公募情報リコメンドシステム』は、研究者がキーワード等を入力することなく、公募情報×研究者情報を用いた自然言語処理により、類似度が高い研究者リストを抽出し、より有用な研究資金公募情報を自動的に提供できるシステムである。本システムの実用化は、URAの業務効率化、タイムリーな情報の提供、「自身の研究分野と関係のある公募情報だけを知りたい」という研究者の要望に応えつつ、更に研究者自身も検討出来ていなかった、新たな研究分野への展開を促す効果も持つと考えている。

第3回RA協議会では『自然言語処理により公募内容との類似度が高い研究者リストを出力するシステムの実装』を報告したが、このシステムを用いて学内研究者に対して試行運用を行った結果と自動送信システムの本格運用状況を紹介する。

## O-3-1:産官学金連携

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 13：20 - 14：50 403（4階）

東京工業大学×ロンドン芸術大学CSM サイエンス×アート産学実験プロジェクト  
米山 晋  
東京工業大学 研究・産学連携本部 URA

東京工業大学において、現在推進しているユニークなプロジェクトの概要とこのプロジェクトの企画、実行に関わるURAのミッションを紹介し、参加者とのディスカッションを行う。

### ■プロジェクトの概要

東京工業大学とロンドン芸術大学セントラル・セントマーティンズ校(CSM)の連携によるサイエンス×アート産学実験プロジェクト

「10年後の東京、ひとは何を着ているか？」（後援：駐日英国大使館）

生命観、最先端テクノロジー、社会課題を踏まえ、都民、エンジニアや素材開発者たちの声をいれて、全く新しい「ウェアラブル・ファッション」のデザインと提案を行う。

### ■URAのミッション

・プロジェクト企画、産学連携、国際連携、プロジェクトマネジメント等

## O-3-2:産官学金連携

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 13：20 - 14：50 403（4階）

中小企業と大学の産学連携にかかるギャップ解消に向けた取り組みについて  
蘆澤 由紀子  
首都大学東京 総合研究推進機構 URA室

首都大学東京は、地域金融機関との産学金連携について、2012年2月から多摩信用金庫より1名、2018年4月からきらぼし銀行より1名（発表者）を常駐で受入れ、人的交流をはじめとした積極的な展開をしている。

地域金融機関の主要顧客である中小企業は産学連携に関心があるものの、どこに問い合わせればいいのか、どういう支援内容があるか、よく知らない企業が多い。また、中小企業が大学に求めるもの（誤解も含む）と、大学が対応できることには大きなギャップもある。

今回の発表では、これまでの地域金融機関との連携の事例を紹介し、上記に挙げた中小企業と大学の産学連携にかかるギャップを踏まえながら、今後の連携の形について金融機関出向者の立場から提案する。

### O-3-3:産官学金連携

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 13：20 - 14：50 403（4階）

#### 民間企業との連携協定を活かした社会との共創の「場」づくり

花岡 宏亮

大阪大学共創推進部社会学共創課

大阪大学は、2018年1月に共創機構を設置し、同年3月に三井不動産株式会社とEXPOCITY（※1）における教育、研究、共創事業等に向けた連携協定を締結した。この連携協定の締結により、EXPOCITYという様々な「共創（Co-creation）」を実践できる「場」をつくることができた。

本発表では、協定締結前の段階で共通の目標を見出したプロセスや、協定締結後のEXPOCITYでの学生の人材育成、実証実験、サイエンスカフェ等の状況を報告し、可能性や課題について意見交換したい。

（※1）EXPOCITY（大阪府吹田市）：三井不動産が運営する「ららぽーと」と8つのエンターテインメント施設からなる大型複合施設のこと。

<http://www.expocity-mf.com/expo/>

### O-3-4:専門業務

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 13：20 - 14：50 403（4階）

#### 「ふくい産学官共同研究拠点」を通じたT-URAによる

#### 学内技術と産業界の要望の融合

西村 文宏

福井大学 産学官連携本部

福井大学では「ふくい産学官共同研究拠点」を整備・運営し、研究の高度化と地域産業の持続的な発展に貢献してきた。整備から約8年経過した現在、初期の予想とは異なる課題が出てきた。その一つが、分析技術の継承である。これは分析希望者自身が分析技能を習得し機器分析を行うという本拠点の特徴に由来する。そこで2018年4月、分析技術の安定した継承体制の構築や萌芽段階の研究を推進することを目的に「T-URA」を配置した。Tはテクノロジーやトレーニング、トランスファー等を意味し、人材の育成や研究現場の情報の集積、機器分析側からの技術相談等、産業界の要望と大学の技術の集約・発信や技術移転が期待されている。今回は、分析技術の継承という新たな課題を解決する「技能水準認定制度」を通じた、研究現場からのより深い関係性の構築について述べる。更にこれらを踏まえて、学内技術と産業界の要望が融合した知的財産を創る体制について議論したい。

## O-3-5:人材育成

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 13：20 - 14：50 403（4階）

人と人をつなぐURAから新分野を提案するサイエンスプロデューサーへ  
～元アルバイト大学事務補佐員の成長記録：新たなURAスタイルの確立へ～  
栗原 翔吾  
筑波大学 URA 研究戦略推進室

2013年4月スポーツ分野出身（専門競技はサッカー：研究者としての経験はなし：前職は名ばかり海外サッカー選手と大学の留学生センターのアルバイト職員）のURAがURA整備事業によって筑波大学に着任した。その任期付URAが各業務を通し、テニユア審査を受け任期の定め  
ない事務職雇用のURAとなり成長した過程を振り返る。

発表では業務内外の活動として、人と人をつなげる活動がプロジェクトチームの形成、そして大型研究費の獲得につながった事例を紹介する。また、上長や執行部へ訴え続けてきた研究費獲得支援業務の提案事例がどう受け入れられたかの経緯とその業務の成果について言及する。さらに、大学の経営に係る事業での提案が、学内の別部署で新たな提案となることなどを経験した。

これまでの提案事例等から新たな分野構築を模索することとなった当該URAの活動を、専門競技のサッカーと絡めて紹介する。